病棟における転倒予防を目的とした判別的バランス評価 SIDE（Standing test for Imbalance and Disequilibrium）

SIDE（Standing test for Imbalance and Disequilibrium），a Balance Evaluation for Fall Prevention in Hospitals

寺西　利生（藤田医科大学保健衛生学部リハビリテーション学科 教授）

転倒は，地域や施設・病棟などで多く発生し問題となっています。そのため，様々な転倒を予測する評価が提案運用されています。それらを分類すると，転倒に関連する因子に重み付けを行い，その合計点をもって転倒の発生を予測する転倒危険度評価とバランス保持能力評価を流用して転倒を予測する手法の２種類になります。

本発表では転倒を予測する評価を概観した後，判別的なバランス能力評価の必要性について説明します。さらに，判別的立位バランス評価として開発された SIDE（Standing test for Imbalance and Disequilibrium）について，信頼性と妥当性，具体的評価法，注意点について言及します。

次に，回復期リハビリテーション病棟における転倒の実情について概説し，入棟早期（詳細な評価が出揃う以前）の転倒が有意に多く，その内容は，センサーや抑制をすり抜けたり，医療者側が予測しなかった不許可動作を行い転倒する例が多く，入棟早期にベッドサイドで簡便に行える評価法が必要であることが分かりました。

さらに，転倒に関連する因子を SIDE level と FIM 下位項目で検討した結果，SIDE level が高くバランス保持能力が高い人は，転倒が少ないこと，FIM 下位項目では，問題解決（自分の要求をどう処理するか）が影響していることが判明した。

そこで,「行動制約時に約束を守れない人，危険行動を行ってしまう人を見つける評価法」について nominal group discussion を用いて簡便な評価法を開発し, 内容として, 立位姿勢保持に関するメタ認知の項目, 性格の項目，記憶と指示遵守の項目，衝動性の項目の４項目が採択されました。

本発表では，開発途上ではあるが，adherence 評価を行った結果についても言及し，最後に，SIDE level 別の転倒防止ガイドラインと危険肢位・危険動作について説明するとともに，転倒発生についての考え方を提案したいと思います。

略歴

昭和 61（1986）年 3 月	金沢大学医療技術短期大学部理学療法学科 卒業
昭和 61（1986）年 4 月	藤田学園保健衛生大学病院理学診療科 理学療法士
平成 15（2003）年 4 月	藤田保健衛生大学リハビリテーション専門学校 専任教員
平成 15（2003）年 4 月	藤田保健衛生大学衛生学部リハビリテーション学科理学療法専攻 助教授
平成 19（2007）年 4 月	藤田保健衛生大学藤田記念七栗研究所リハビリテーション部門 准教授
平成 23（2011）年 10 月	藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科 教授
平成 27（2015）年 4 月	藤田保健衛生大学大学院保健学研究科（博士後期課程）教授
平成 30（2018）年 10 月	藤田医科大学に名称変更
	現在に至る